

* 猛暑の中 ドライバーに安全運転 訴え *

交通安全協会矢沢分会（大森松司分会長）と矢沢交通安全母の会（高橋純子会長）は夏の交通事故防止県民運動の一環として、街頭啓蒙活動【一服一休運動】を8月6日、花巻東バイパス「もしもしピット」で実施し、ドライバーに安全運転を呼びかけました。コロナ禍で、2年振りの開催となり不安が広がる中ではありますが、感染防止対策をとりチラシや反射グッズなど、あらかじめ用意した袋詰め物品150個をドライバーに手渡し、交通安全の順守を訴えました。

当日は分会や母の会、花巻署、花巻市交通安全対策協議会、交通指導員合わせて27名が参加しました。

花巻署 菊池交通課長は、これからお盆にかけて飲酒の機会が増える。飲酒運転をしないよう注意を促してほしいと話されました。



大森分会長の初舞台

矢沢地区一斉清掃実施

8月7日（日）矢沢地区民協働による矢沢地区独自の一斉清掃が各地で行われました。皆さん大変ご苦勞様でした。



● 第13回矢沢伝統芸能伝承大会開催に向けて！ 事業部会開催

7月26日、新型コロナウイルス感染が再拡大の中ではありますが、2年間中止となっておりました第13回矢沢伝統芸能伝承大会の開催に向け、伝統芸能振興事業部会（田口守男部会長）を開催しました。会議は中島健次実行委員会会長（矢沢地域振興会会長）を交えて熱心に話し合わせ、現段階において開催に向けて準備を進めることで意思統一を図りました。伝承大会は矢沢地域振興会の重要な事業の一つであり、コロナの感染状況は予断を許しませんが、演目数など内容の変更、コロナ感染対策の徹底などを図りながら、実施に向けて準備を進めていきたいと考えております。



伝統芸能振興事業部会の模様



過去の伝承大会の一コマ

❖ お子さんは地域の宝 ❖

赤ちゃんの笑顔にほっこり！



「赤ちゃん誕生祝い」として矢沢地域振興会ではささやかな記念品をプレゼントしています。

昨年からお生まれの新生児を対象にご連絡をお待ちしています。

まだの方は下記へ電話にてお願いします。

矢沢振興センター (電話 23-2171)

○ 「夏休みこども講座」は中止！

7月27日(水)に計画しておりました夏休みこども講座は、残念ながら急遽中止となりました。「来年こそは実施を！」との思いでいっぱいです。

佐藤拓男氏「東十二丁目誌 補解」自費出版

佐藤拓男さんは、東十二丁目・荒屋敷出身で、現在は千葉県流山市に在住です。佐藤さんは東北大学を卒業後、(株)大林組に長年勤められ、主に情報システム部門に籍を置かれていました。

佐藤さんは著書の冒頭「私が花巻市東十二丁目のあれこれを調べるに当たってまず参照するのが東十二丁目誌(平成2年発刊)、その著者が石崎直治先生です。」と述べておられます。

石崎先生の残された蔵書が石崎家から島区民会に寄贈され、現在、島コミセンの図書室に「石崎文庫」として保管されています。佐藤さんは、帰省する度に石崎文庫の整理・調査研究を進められ、その成果をまとめられた「東十二丁目誌 補解」(令和4年6月19日発行)を自費出版されました。

318ページに及び力作で、この度、矢沢地域振興会に寄贈していただきました。なお、この本をご希望の方は矢沢振興センターへご連絡願います。(電話 23-2171)



【事務局員のつぶやき】(チベット高気圧とは?)

気象庁が春先に発表した今年の夏の高温予想の要因の一つにチベット高気圧の卓越予想をあげていますが、実際にチベット高気圧の動向はどうだったのか? 今年に関東以西の梅雨明けは早く、東京では6月30日に6月として第1位の最高気温36.4℃、続く7月1日には37.0℃(平年差+9.0℃)を観測しています。この後、東北でも高温が続き花巻では7月3日に34.4℃(平年差+8.0℃)を観測し7月2日から5日まで連続4日間真夏日を記録しました。

この要因としてチベット高気圧の勢力が日本付近にまで及んだことが言われています。すなわち太平洋高気圧(上空約5,800メートル)の上に重なる状態で、チベット高気圧(気象用語集によると上空約15km)が日本列島へ伸び、日本付近は「二階建て」状態となりました。このように高気圧が重なると上空の空気が吹き下ろして圧縮する力が強まり、広い範囲で高温となります。

右の図は300hPa天気図(上空約9,600メートル)です。本来チベット高気圧は100や200hPa天気図に現れますが、参考として、300hPa天気図を掲載しました。この天気図から日本付近は気圧の峰(リッジ)に覆われ、偏西風が北に蛇行(メアンダー)していることが分かります。また、上層迄日本付近が気圧の峰になって如何に高気圧が強まっているかが伺えます。チベット高気圧の成因として、チベット高原の直接、間接の大気加熱やアジアモンスーンの活発な対流活動と言われています。東北北部では、今年の梅雨明けは7月26日で、日本付近の上層は気圧の峰となっており、猛暑が続いています。一方、前線や太平洋高気圧からの縁辺流による記録的な大雨も続発しています。



300hPa天気図(令和4年7月1日21時)